

日本の金融業、情報産業における収穫逓増構造と所得格差

～もう一つの格差拡大～

政策科学研究所 ○教授 おおすみ やすゆき 大住 康之

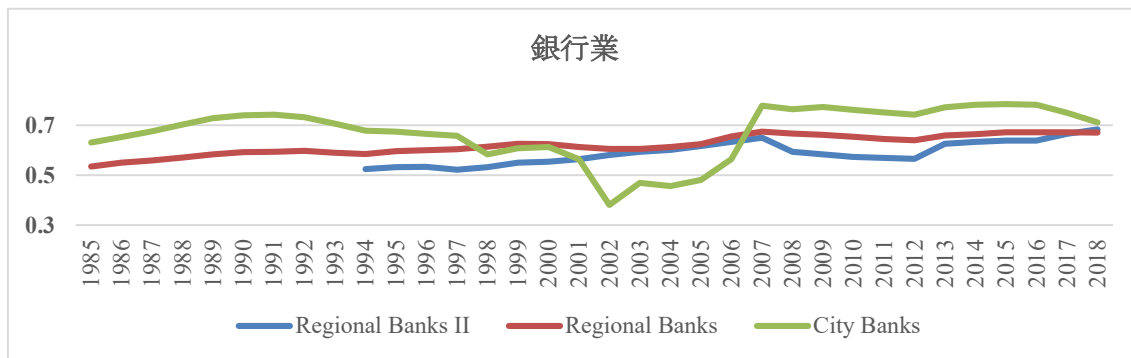
キーワード

規模の経済, ICT, スーパースター企業, 市場集中, サービス産業, 所得格差

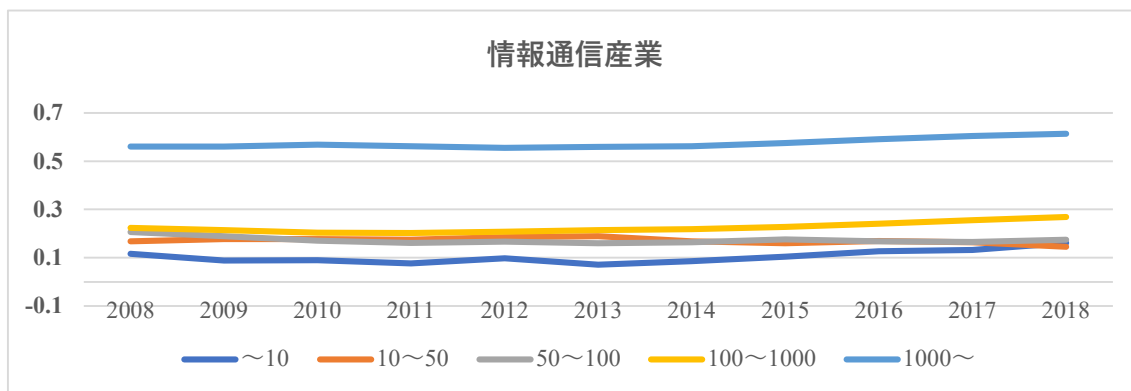
研究概要

近年日本においても巨大銀行、情報産業における大企業ほど資本分配率が大きく労働分配率は小さい傾向にあります。一極集中化現象の帰結の一端を表すといえます。

資本分配率の推移



全国銀行財務データ



法人企業統計、単位 100 万円

アピールポイント

日本においても ICT(情報通信技術)やグローバル化によって、サービス産業のとりわけ銀行業や情報産業において巨大企業が出現してきています。理由として、大がますます大となる規模に関する収穫逓増構造がこのような産業に生じつつあることを例証しています。本研究はこのような一極集中化現象について規模の経済に着目し、格差拡大との関連について明らかにし、必要な政策を提言することを目指しています。

参考: Miyake, A and Y. Osumi (2019), "Firm Size, Rate of Return on Capital, and Increasing Returns to Scale- The Japanese Financial and Information Communication Service Sectors -" APEA (Asia-Pacific Economic Association) 2019, 15th Annual Conference, Fukuoka, August 2019.